

卒業生の進路状況

— 実習病院定着率を中心に —

川崎医療短期大学 看護科

林 喜美子

宇野 恵子 前田 由美子

(昭和58年9月19日受理)

A Study on the State of the Graduates' Course
— the Settling Rate at their Training Hospital —

Kimiko HAYASHI

Keiko UNO Yumiko MAEDA

Department of Nursing Education, Kawasaki College of Allied Health Profession

Kurashiki 701-01, Japan

(Received on Sep. 19, 1983)

Key words : 卒業生, 実習病院, 定着率, 出身地, 奨学金

概 要

実習病院の定着率を高める対策の1つとしてとってきた, 県内・近県出身者の募集の強化と川崎看護奨学金について, その効果をみてきた。

本学の教育目的である実践できる看護婦を育てるためにも, 実習場が教育の場としてふさわしい人的条件をもっていることが望まれる。卒業生の定着率を高めることが, その条件を充実させることになると考えた。

一看, 二看, 年度別による変化はあるが, 共に岡山県内・近県出身者の定着率が高く奨学金受給者の実習病院定着率が高い, という結果を得た。

I はじめに

昭和48年4月, 本学の創立を初年度として始まった看護科は, 本年4月で満10年を迎えた。豊かな人間性を持ち, 看護が実践できる人を育てるという教育の目的をもって, 臨床実習を川崎医科大学附属病院でしている。

実習場の教育的条件を高めるためにも, 卒業生の定着率を高めることが望まれる。その対策

の一つとして、岡山県内・近県出身者の募集を強化し、川崎看護奨学金制度を設けている。

看護科が満10年を迎えたのを機会に、卒業生の進路状況を調査し、合わせて実習病院への定着率を出身地と奨学金の面からみたので報告する。

Ⅱ 調査方法

本学看護科を第一看護科（3年課程以下一看という）昭和48年（1期生）から、昭和55年（8期生）までの422人、第二看護科（2年課程以下二看という）、昭和48年（1期生）から昭和56年（9期生）までの303人を対象とする。

調査方法は、入学時及び、卒業時書類より、分類する。分類方法は、川崎医科大学附属病院

表1 年度別進路状況

区 分 入 学 年 期	入 学 者 人	卒 業 者 人	就 職 者 人			進 学 者 人	未 就 職 者 人	不 明 人	
			看 護 職		看 護 職 以 外				
			川崎医大 (1群)	他 病 院 (2群)					
第 一 看 護 科	昭和48年 (1)	19	18	9 (50.0)	2 (11.1)	—	7 (38.9)	—	—
	49年 (2)	38	38	24 (63.2)	8 (21.1)	—	1 (2.6)	—	5 (13.2)
	50年 (3)	49	47	26 (55.3)	12 (25.5)	—	7 (14.9)	1 (2.1)	1 (2.1)
	51年 (4)	58	52	33 (63.5)	11 (21.2)	—	7 (13.5)	1 (1.9)	—
	52年 (5)	71	64	38 (59.4)	9 (14.1)	—	16 (25.0)	—	1 (1.6)
	53年 (6)	64	60	34 (56.7)	18 (30.0)	—	8 (13.3)	—	—
	54年 (7)	57	57	38 (66.7)	9 (15.8)	—	10 (17.5)	—	—
	55年 (8)	89	86	42 (48.8)	27 (31.4)	2 (2.3)	9 (10.5)	6 (7.0)	—
	計	445	422	340 (80.5)		2 (0.5)	65 (15.4)	8 (1.9)	7 (1.7)
			244 (57.8)	96 (22.7)					
第 二 看 護 科	48年 (1)	24	23	6 (26.1)	14 (60.9)	—	3 (13.0)	—	—
	49年 (2)	50	49	13 (26.5)	27 (55.1)	—	5 (10.2)	—	4 (8.2)
	50年 (3)	58	55	23 (41.8)	28 (50.9)	—	2 (3.6)	—	2 (3.6)
	51年 (4)	61	59	32 (54.2)	21 (35.6)	—	3 (5.1)	1 (1.7)	2 (3.4)
	52年 (5)	33	32	21 (65.6)	8 (25.0)	—	2 (6.3)	1 (3.1)	—
	53年 (6)	42	39	17 (43.6)	19 (48.7)	—	3 (7.7)	—	—
	54年 (7)	27	27	16 (59.3)	8 (29.6)	—	1 (3.7)	1 (3.7)	1 (3.7)
	55年 (8)	10	10	6 (60.0)	4 (40.0)	—	—	—	—
	56年 (9)	9	9	1 (11.1)	7 (77.8)	—	1 (11.1)	—	—
	計	314	303	271 (89.5)		—	20 (6.6)	3 (1.0)	9 (3.0)
			135 (44.6)	136 (44.9)					

()は卒業者数に対する比率 %

(以下実習病院という)への就職群と、実習病院以外への就職群別による、出身県、川崎看護奨学金受給者(以下奨学金という)との関連から分析する。

Ⅲ 結果

① 年度別進路状況

表1よりみると、一看は昭和51年入学生(4期生)から、定員を上回る58人の入学生があり、以後9期生まで確実に増えている。

二看は、4期生まで増加傾向であったが、5期生からは定員の66.0%と減少した。

一看では卒業生数の80.5%(340人)の者が卒業してすぐ看護職に就いている。そのうち57.8%の者が実習病院に就職している。22.7%の者がその他の病医院に就職している。

二看では、89.5%(271人)の者が卒業してすぐ看護職に就いている。一看と比較すると看護職に就いている者は、9.0%高いが、実習病院への定着率は13.2%低い。

年度別にみると、一看二看とも一定の傾向はみられない。一看の定着率の最高が昭和54年の66.7%、最低が昭和55年の48.8%、二看では、最高が昭和52年の65.6%、最低が昭和56年の11.1%である。二看については、川崎看護奨学金が始まった昭和52年に定着率が増加している。

② 卒業生の出身府県別内訳

表2によると、県内出身者は一看二看それぞれ、卒業生数の43.4%、41.3%と高率を示す。

表2 卒業生の出身府県別内訳

第一看護科

入 学 年 (期)	卒 業 者 数	九州地方				四国地方				中国地方				近畿地方				中部地方				関東地方		北 海 道	
		福 岡	大 分	宮 崎	熊 本	鹿 児 島	香 川	徳 島	愛 媛	高 知	山 口	広 島	島 根	鳥 取	岡 山	兵 庫	京 都	大 阪	三 重	和 歌 山	滋 賀	愛 知	福 岡		富 山
昭和48年 (1)	18	3 (16.7)				1 (5.6)				13 (72.2)				1 (5.6)											
49年 (2)	38	2 (5.3)				6 (15.8)				26 (68.4)				3 (7.9)				1 (2.6)							
50年 (3)	47	3 (6.4)				4 (8.5)				36 (76.6)				4 (8.5)											
51年 (4)	52	3 (5.8)				4 (7.7)				41 (78.8)				3 (5.8)				1 (1.9)							
52年 (5)	64	5 (7.8)				5 (7.8)				47 (73.4)				6 (9.4)											
53年 (6)	60	1 (1.7)				7 (11.7)				46 (76.7)				5 (8.3)											
54年 (7)	57	1 (1.8)				8 (14.0)				35 (61.4)				13 (22.8)											
55年 (8)	86	7 (8.1)				9 (10.5)				61 (70.9)				8 (9.3)				1 (1.2)							
計	422	26 (6.2)				44 (10.4)				305 (72.3)				43 (10.2)				3 (0.7)							

第二看護科

49年 (1)	23	7 (30.4)				1 (4.3)				12 (52.2)				3 (13.0)										
50年 (2)	49	2 (4.1)				1 (2.0)				34 (69.4)				2 (4.1)				5 (10.2)						
51年 (3)	55	3 (5.5)				4 (7.3)				30 (54.5)				8 (14.5)				9 (16.4)						
52年 (4)	59	5 (8.5)				7 (11.9)				41 (69.5)				5 (8.5)				1 (1.7)						
53年 (5)	32	5 (15.6)				1 (3.1)				20 (62.5)				4 (12.5)				2 (6.3)						
54年 (6)	39	5 (12.8)				1 (2.6)				28 (71.8)				1 (2.6)				1 (2.6)						
55年 (7)	27	4 (14.8)				3 (11.1)				18 (66.7)														2(7.4)
56年 (8)	10	1 (10.0)								8 (80.0)								1 (10.0)						
57年 (9)	9					1 (11.1)				7 (77.8)				1 (11.1)										
計	303	37 (12.2)				19 (6.3)				198 (65.3)				27 (8.9)				19 (6.3)				1(0.3)		2(0.7)

地方別でみると、一看では中国地方72.3%、四国地方10.4%、近畿地方10.2%の順となっている。二看では、中国地方65.3%、九州地方12.2%、近畿地方8.9%、四国地方中部地方6.3%と、二看の方が九州地方中部地方の遠隔地からの出身者が多い。

県別では、県内に続き一看では、広島18.2%、兵庫8.5%、香川4.7%が多く、二看では、広島9.6%、山口7.9%、鳥取4.0%、福岡4.0%の順である。

③ 川崎看護奨学金受給状況

表3より昭和52年は一看57.8%、二看71.9%の者が奨学金を受給しているが、年々その比率は減少している。昭和52年を除けば、二看の方が受ける比率が低い。進学等を除けば95.6%の学生が実習病院に就職している。

表3 川崎看護奨学金受給状況

科	区分 入学年	卒業者 (人)	川崎奨学 金受給者 (人)	就 職 状 況		
				実習病院	実習病院 以外	そ の 他
第一 看 護 科	昭和52年 (5)	64	37 (57.8)	27 (73.0)	—	10 (27.0)
	53年 (6)	60	29 (48.3)	25 (86.2)	1 (0.3)	3 (10.3)
	54年 (7)	57	24 (42.1)	23 (95.8)	—	1 (4.2)
	55年 (8)	86	27 (31.4)	23 (85.2)	3 (11.5)	1 (3.8)
	計	267	117 (43.8)	98 (83.8)	4 (3.4)	15 (12.9)
第二 看 護 科	52年 (5)	32	23 (71.9)	17 (73.9)	2 (8.7)	4 (17.4)
	53年 (6)	39	10 (25.6)	8 (20.5)	—	2 (5.1)
	54年 (7)	27	5 (18.5)	5 (100.0)	—	—
	55年 (8)	10	3 (30.0)	3 (100.0)	—	—
	56年 (9)	9	—	—	—	—
	計	117	41 (35.0)	33 (80.5)	2 (4.9)	6 (14.6)

④ 実習病院に就職した者(1群)の出身府県別内訳と奨学金受給状況

図表1をみると、地方別では一看は、中国地方79.5%(194人)、四国地方、近畿地方、九州地方ともに6.6%(16人)である。

さらに看護婦として就職したものに対する1群の割合をみると、九州地方84.2%、中国地方77.0%、四国地方47.1%、近畿地方48.5%と遠隔地である九州地方が人数は少ないが実習病院への就職率が高いことがわかる。

同様に中国地方各県の比率をみると、岡山88.5%、広島65.7%、鳥取57.1%、島根55.6%、山口41.7%で岡山がもっとも高い。中国地方以外で5人以上出身者がいる県では香川、兵庫が

実習病院への就職率が高い。

二看では、中国地方74.8%(101人)である。次いで九州地方14人、四国地方8人、近畿地方6人となる。さらに看護婦として就職したものに對する1群の割合をみると、中国地方57.1%、九州地方43.8%、四国地方42.1%、中部地方31.3%、近畿地方24.0%となる。

同様に中国地方各県の比率をみると、鳥取83.3%、島根62.5%、岡山56.3%、広島56.0%である。

一看と二看を比較すると、一看の方が県内出身者の実習病院への就職率が高い。一看は遠隔地の九州地方と、香川県の学生が残る率が高く、二看は全体的にばらついているが、鳥取県、島根県が高い。

昭和52年以後の就職者の内奨学金を受けている者は一看では61.2%、二看では54.1%である。県別にみると一看では県内がもっとも多く70.1%、二看では岡山68.8%、広島60.0%である。

⑤ 実習病院以外に就職した者(2群)の出身府県別内訳

図表2をみると、地方別では一看は、四国地方52.9%、近畿地方51.5%、中国地方23.0%、九州地方15.7%となっている。

同様に中国地方各県についてみると、山口58.3%、島根44.4%、鳥取42.9%、広島34.3%、岡山11.2%である。

このうち出身地へ帰った者の割合をみると山口85.7%、広島82.6%、島根62.5%、鳥取33.3

図表1 実習病院に就職した者(1群)の出身府県別内訳と奨学金受給状況

全就職者に対する比率%	第一看護科									奨学金受給率%	合計	都道府県	合計	奨学金受給率%	第二看護科									全就職者に対する比率%		
	8期生	7期生	6期生	5期生	4期生	3期生	2期生	1期生	1期生						2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	8期生	9期生				
0										0	0	北海道	1	0												100.0
0										0	0	東京	0													0
100.0					*					0	1	栃木	0													0
0										0	0	長野	0													0
0										0	0	富山	3	100.0			**									37.5
0										0	0	福井	1	0			*									100.0
100.0										0	1	静岡	0													
0										0	0	愛知	1	0			*									50.0
0										0	0	滋賀	1	0			*									14.3
100.0					*					0	1	和歌山	0													0
0										0	0	三重	0													0
0										0	0	大阪	0													0
100.0			*							0	1	京都	0													0
50.0	*◎	***◎	◎	◎	◎	*	*	**		50.0	14	兵庫	5	66.7		*	*		*◎						45.5	
88.5	***◎◎	◎◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	***	***	***	**	70.1	181	岡山	68	68.8	*	****	**	***	◎◎◎◎	◎◎◎◎	◎◎◎	◎◎	*		56.3	
57.1			*	◎	*				*	50.0	4	鳥取	10	20.0		*	****	◎*	*	**				83.3		
55.6			*◎	◎		***	**	**		75.0	10	島根	5	100.0		*	**	*	◎					62.5		
65.7	**◎	◎◎◎◎	*◎	◎◎◎◎	***	**	**	**	**	57.7	44	広島	14	60.0		*	****	◎	*	◎	◎*			56.0		
41.7		◎	◎	◎				**	**	100.0	5	山口	9	25.0	***	**		◎	***					45.0		
20.0				*						0	1	高知	0											0		
40.0		*	◎		**					50.0	4	愛媛	4	100.0		*	**	◎						36.4		
0										0	0	徳島	2			*	*							100.0		
68.8	◎	◎◎◎	*		*	**	***			80.0	11	香川	2	0					*		*			100.0		
100.0	*					*	*	*	*	0	3	鹿児島	1			*								25.0		
66.7		*		◎						50.0	2	長崎	2	100.0			*	◎						40.0		
100.0	*			*	*	*				0	4	熊本	3	0	*	*		*						42.9		
100.0				◎						100.0	2	宮崎	0											100.0		
100.0				◎						100.0	1	大分	3	0		*	*			*				50.0		
66.7	◎				*					100.0	4	福岡	5	0		*	*	*	*	*	**			50.0		
	42	38	34	38	33	26	24	9		244	計	185				6	13	23	32	21	17	16	6	1		

・就職者 1人 5人 ○奨学金受給者 1人 5人

図表2 実習病院以外に就職した者(2群)の出身府県別内訳

全就職者に対する比率%	第一看護科								出身地へ帰った率%	合計	都道府県	合計	出身地へ帰った率%	第二看護科									全就職者に対する比率%		
	8期生	7期生	6期生	5期生	4期生	3期生	2期生	1期生						1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	8期生	9期生			
0									0	0	北海道	0	0												0
0									0	0	東京	1	100			⊙									100
0									0	0	栃木	0	0												0
0									0	0	長野	1	0												100
0									0	0	富山	5	80.0		⊙⊙⊙	⊙							*		62.5
0									0	0	福井	0	0												0
0									0	0	静岡	4	50.0		⊙		**		⊙						100
0									0	0	愛知	1	0												50.0
0									0	0	滋賀	6	88.3			*	⊙⊙		⊙⊙⊙						85.7
0									0	0	和歌山	2	50.0			*	⊙								100
100								⊙	100	100	三重	0	0												0
100							⊙⊙		100	2	大阪	2	100					⊙	⊙						100
0									0	0	京都	3	100	⊙⊙		⊙									100
50.0	⊙⊙⊙⊙	⊙⊙⊙⊙		⊙⊙	⊙	⊙			92.8	14	兵庫	6	83.3	*	⊙	⊙⊙⊙	⊙⊙⊙⊙							⊙	54.5
11.2	**⊙⊙		**⊙	*	**⊙	**	*	⊙	29.4	17	岡山	49	26.5	**	⊙⊙⊙⊙	⊙⊙⊙⊙	⊙⊙⊙⊙	⊙⊙⊙⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	43.8
42.9			⊙			**			33.3	3	鳥取	2	50.0				*	⊙							16.7
44.4	*⊙	⊙*	⊙			⊙⊙*			62.5	8	島根	3	33.3		⊙**										37.5
34.3	⊙⊙⊙⊙⊙	⊙	*⊙⊙⊙⊙	⊙	⊙⊙**	⊙	⊙⊙⊙⊙		82.6	23	広島	11	81.8	⊙	⊙	⊙	⊙⊙⊙	*	⊙*			⊙	⊙		44.0
58.3	⊙⊙	⊙	⊙	⊙⊙		⊙	*		85.7	7	山口	11	72.7	⊙*	⊙	⊙⊙	*	⊙⊙				⊙*			55.0
80.0	⊙⊙⊙	⊙							100	4	高知	4	75.0						⊙		⊙⊙*				100
60.0	⊙	⊙	⊙⊙*				*		66.6	6	愛媛	7	85.7	*	⊙	⊙⊙	⊙⊙						⊙		68.6
33.3				⊙					100	1	徳島	0	0												0
48.8	⊙⊙		⊙	⊙⊙		⊙	⊙		100	7	香川	0	0												0
0									0	0	鹿児島	3	33.3	*					*	⊙					75.0
33.3			⊙						100	1	長崎	3	33.3	*	⊙*										60.0
0									0	0	熊本	4	25.0	⊙	*	*	*								57.1
0									0	0	宮崎	0	0												0
0									0	0	大分	3	100			⊙			⊙	⊙					50.0
33.3			⊙			⊙			100	2	福岡	5	60.0	**			⊙		⊙⊙						50.0
28.2	27	9	18	9	11	12	8	2	74	96	計	126		14	27	28	21	8	19	8	4	7		50.1	

・ 1人 ⊙ 地元へ帰って就職した者

%, 岡山29.4%で, 広島, 山口県出身者は地元へ帰って就職している者が多いといえる。

次に二看を地方別にみると, 近畿地方76.0%, 中部地方68.7%, 四国地方57.8%, 九州地方56.2%, 中国地方42.9%, いずれも約半数の者が実習病院以外に就職していることになる。

同様に中国地方各県についてみると岡山43.8%, 広島44.0%, 山口55.0%, 鳥取16.7%, 島根37.5%である。

このうち出身地へ帰った者の割合をみると広島81.8%, 山口72.7%, 鳥取50.0%, 島根33.3%, 岡山26.5%である。なお, 中国地方以外で5人以上の出身者があって8割以上の者が地元へ帰っている県は広島, 愛媛, 兵庫, 滋賀, 富山県となっている。

Ⅳ 考 察

本学看護科は, 昭和48年4月に開学された。入学状況は, 一看, 二看とも定員の5割に充たず, 二次, 三次の募集をしている。また, 昭和55年, 志願者急減少に伴って, 入学者の資質低下, 教育水準の低下をきたさない教育をしたいという厳しい入学選抜をしている。

看護科入学生の確保をはかるため, 岡山県近県への募集を強化し, さらに昭和52年から川崎医療短期大学奨学金制度を, 川崎看護奨学金制度に切り変えている。

昭和50年から58年までの9年間の卒業生の就職率は, 一看では80.8%, 進学率は15.4%, 二看では就職率は89.5%, 進学率は6.6%である。大阪大学医療技術短期大学での, 氏家の報告に

よると昭和44年から47年の4年間の就職率62.5%、進学率32.5%である。

実習病院への定着率も、大阪大学医療技術短期大学の場合、44年(58%)、45年(54%)、46年(26%)、47年(14%)と、漸減傾向である。

本学も年度ごと推移でみると、一看では、48年(50%)、49年(63.2%)、50年(55.3%)、51年(63.5%)、52年(59.4%)、53年(56.7%)、54年(66.7%)、55年(48.8%)のように、一定傾向はみられないが、実習病院への定着率は高いといえる。二看においては、教育課程が異なるので比較はできない。

川崎看護奨学金に切り変えた、昭和52年以前と以後に分けて、実習病院への定着をみると、一看では昭和51年以前では約60.0%、52年以後では約57.0%で、大差はみられない。二看では、昭和51年以前では約40.0%、52年以後では52.0%である。二看では奨学金受給率は、低いが、実習病院への定着率は、52年以後高くなっている。近年奨学金を希望する学生は、減少傾向を示している。原因としては、卒業後かならず実習病院へ就職することが原則となっているため、入学時に2年、3年後のことは決められないということも、奨学金希望調査面接でもいっている。また現代学生気質として、卒業後拘束されたくないということも影響していると思われる。

実習病院へ、就職する卒業生と、奨学金との関連は、一看、二看ともに50.0%以上である。実習病院就職者の約半数が、奨学金受給者である。奨学金受給率と実習病院定着率との大きな関係はみられない。今回は、川崎看護奨学金についてだけみてきたが、その他にも岡山県看護学生奨学金制度があり、合わせて受けている者も多い。両方を受けている者の実習病院定着率は高くなっている。

出身府県別内訳から、実習病院定着率をみると、一看では、岡山県出身者が88.5%と他府県に比べ高率である。二看では、56.3%と、一看に比べやや低率である。原因は県内看護学校進学コースが13校あり、専修学校ではあるが授業料が本学より安いことが考えられる。中国地方でみると、一看では72.3%、二看では65.3%と実習病院への就職者は、7割以上が岡山、鳥取、島根、広島、山口の出身である。

奨学金受給率についても岡山県が、一看では64.7%、二看では64.9%である。中国地方でみると、一看では84.5%、二看では83.8%と高率である。

実習病院へ就職しない一看(22.7%)、二看(44.9%)の卒業生について地域別にみると、一看では四国・近畿、二看では近畿・中部・四国地方の隣接地方に多い。中国地方で実習病院に就職しなかった者は、二看の岡山を除いては、両者とも地元へ帰って就職している。特に山口県出身者は、両者ともに地元への定着率が高いといえる。この理由の一つは、山口県に看護学校が少なく、また県内病院の看護婦充足率が低いことが考えられる。二看にみられる岡山出身者では、他県特に大阪、京都府からの奨学金を受けて入学している者が多いためである。卒業後県外に就職していることがいえる。

卒業時の就職状況を見ると、岡山県内、近県出身者の実習病院定着率が高いといえる。

奨学金受給者と実習病院定着率については、明らかな関係はみられないが、実習病院就職者

の約半数は、奨学金受給者であることから2年ないし3年は、定着していると考えられる。奨学金を受けなかった者で、実習病院に就職した者の在職年数等にちがいがあるか否かについてもみていく必要があると思われる。

今一つ奨学金受給率は低い、実習病院への定着率の高い九州地方については、全体数が少ないので、在職期間、選択の理由などの面からもみなければ、定着率がよい、とはいえない。

卒業時看護学生が、就職病院を選択する条件として、花田は、労働条件のよい所、人間的成長が期待される魅力ある職場、良い管理者がいるところ、文化的薫りが高く消費水準も高い地域を選ぶと述べている。こうした職場の条件からもみる必要があると思われる。

本学看護科設立の意図のなかに、看護婦確保対策が含まれることは、現在の医療の実状において、致し方ないと思われる。

高度な医療に応える看護婦を育てるには、現在の短大教育では十分ではない。できれば実習病院で卒業教育を受けて、実務経験を積むことが必要と思う。この自己研鑽が実習場の教育環境を高めるとともに、後輩看護婦の教育への充実につながることをも期待している。

V おわりに

看護科卒業生725人の進路状況から、看護職に就いた611人について、実習病院への定着率に関係する因子である出身地と奨学金について調査した。その結果次のような結論をえた。

- 1) 卒直後看護職に就いた者は一看80.5%、二看89.5%と共に8割以上で二看が多い。
- 2) 実習病院への定着率は一看71.8%、二看49.8%で二看の定着率是一看より約2割少ない。
これは二看の出身地域が広いこと、遠隔地(特に中部地方)の者の地元定着率が高いことによる。
- 3) 実習病院へ就職した者の出身県は岡山と広島が多く一看は71.7%、二看は57.0%を占めている。二看が低いのは出身地域が広いことと、岡山県出身者の奨学金受給率が一看42.8%に比べて21.4%と低いことが考えられる。
- 4) 出身者の多い岡山、広島県の実習病院定着率をみると一看88.5%、二看56.3%である。二看は、県内病院への定着率が低いことから県外病医院へ動いている者が多いといえる。
- 5) 近県の定着率で高いのは一看は九州地方、香川県で、二看は出身地域の広がりがあり府県の特徴はみられない。一看二看共に定着率が低いのは、兵庫、山口県で、この二県は地元定着率が高い。
- 6) 実習病院就職者の奨学金受給者是一看82.5%、二看81.8%で共に8割以上である。奨学金制度が定着率を高める大きな因子になっている。
- 7) 川崎看護奨学金の受給率是一看44.9%、二看37.6%で共に高いとはいえずやや減少傾向にある。そして受給率と定着率の明らかな関係はみいだせない。

就職に対する意識、在職期間等については今回調査できなかった。定着率の高いことが実習場の教育を高めることになるとは、明言できないが、募集の強化や奨学金に頼るのではなく、

教育の中で実習病院へ就職したいという意識を高められるような努力をしなければならないと感じた。

謝 辞

稿を終えるにあたって、カード作成についての貴重なご助言を頂きました、本学医療秘書科の草信正志助教授に深く感謝いたします。

文 献

- 1) 氏家幸子・ほか：大阪大学医療技術短期大学部看護科学生の動向 VI. 卒業後の進路に関して，看護教育，15(5)，326，1974.
- 2) 花田ミキ：帰去来 ふるさとへ！看護，30(11)，36，1978.
- 3) 松岡淳夫・他：高等学校衛生看護科学生の実態と動向について，看護教育，17(8)，1976.

